

information

町内の放射線量測定開始

2011年3月11日の福島第1原子力発電所の事故により、放射性物質が大気に放出され、環境中の放射線に対する不安が高まってきています。

鬼北町では、町民の皆さんが身近な放射線量を把握することができるよう、町内の特定箇所にて定期測定を開始しました。

私たちの身の回りには自然界からの放射線が存在しています。自然放射線は、地域によって差があり、マグマが冷えて固まった花こう岩の多い地域は放射線量が高くなり、関東では関東ローム層が被っているため、関西より低めとなります。

身の回りの放射線を常に把握しておくことで、万が一の事態を迅速かつ正確に把握することができます。

問 役場 環境保全課 環境衛生係 内線2131

【空間放射線量測定結果】(測定日:11月21日)

測定場所	測定結果 (毎時マイクロシーベルト)
鬼北町役場	0.08
好藤保育所	0.11
愛治公民館	0.07
三島公民館	0.08
小倉コミュニティセンター	0.11
鬼北町役場日吉支所	0.07
父野川下農村広場	0.12

※測定値には、気象条件、測定器等により差が出ますので、参考数値となります。

※いずれも国の基準【毎時0.23マイクロシーベルト】を下回っており、問題のない数値です。

※詳細については、ホームページをご覧ください。

Topics

第9回鬼北町社会福祉大会

第9回鬼北町社会福祉大会は11月10日、広見体育センターにおいて開催されました。

大会では、家族の介護を献身的に行った方に対する表彰や、婦人会によるダンスや民舞などのアトラクション(写真上)も行われ、婦人会のアトラクションでは時折、笑いが起こる場面も見られました。

また、今年は「命ある限り—松本サリン事件を超えて」と題して、NPOリカバリー・サポートセンター顧問の河野義行さん(写真下)を講師に迎えての講演会を開催。

松本サリン事件が発生した当時、容疑者としての疑いをもたれた経験のある河野さん。そのために厳しい非難やいやがらせを受けたことを明かし、また「加害者の家族は何の事件も起こしていないにも関わらず、加害者と同じ扱いを受けるのが現実」「この世の中はこれで正常なのかと感じた」と当時の心境を語りました。

そして、自らもサリンの被害に遭い、入院を余儀なくされた経験から、犯罪被害者の経済的困窮を問題視。「加害者にも経済的余裕がない場合が多く、慰謝料を振り込めない」ことを指摘し、「犯罪被害者の経済的支援を考えるなら、加害者の経済的支援も同時に考えるべき」と訴えました。

